

2012 Eye's

にいがた
No.1 ものがたり

想い | つくる | 伝える

新潟市
燕市

[F u u d]
2012 夏号
—季刊—

信濃川 大いなる財産

はじめまして
ぼくたちは時の魔法使い
「リンとコロ」です

いまの信濃川を
知る旅にでるよ

コロ
リン

がんばろう ● ニッポン!

小千谷市で大きく蛇行する信濃川。5月末、あたりの田んぼは水が張られ、田植えが始まろうとしていた。(小千谷市 山本山高原より)

Take Free
ご自由にお持ちください

[旧会津街道 津川] 文 / 榎本国男

文化の来た道 vol.02

阿賀町は、国道49号の旧津川町と国道459号の旧鹿瀬町豊実で福島県とつながる。江戸期から明治19(1886)年まで会津藩領としての歴史を刻んでいた。いまも明治生まれの人は会津を懐かしむ風がある。町のほぼ中央を阿賀野川と常浪川が横断し、新潟湊から津川へ阿賀野川を上下する川の道と、津川から峠をこえ会津若松へ行く陸の道を中継する水陸運の要衝地で、川湊町、宿場町として発展した。阿賀野川水運は「津川船道」と称され、津川に会津藩の船番所が置かれ、名実ともに徳川將軍家親族の名門と認められた藩をさえる重要な地だった。新潟湊からの上り船は塩・海産物・日常雑貨等を積み、下り船は木材が多く、津川は周辺の山々から伐りだした材木の集散地として広く知られていた。

阿賀野川と常浪川の合流点の近くに厳しい姿でそびえ立つ麒麟山。頂上には鎌倉時代に築かれた山城の跡がある。城主は会津芦名氏の一族。城は別名「キツネ廻し城」と呼ばれていたが廃城となった。そして会津藩の代官所は津川の町内に置かれたが、その跡地に今は《狐の嫁入り屋敷》がある。

山中に石畳の道を残す旧会津街道は、参勤交代の際に村上藩も新発田藩も通った道。現在は町指定の文化財になっている。この道の先には、今も八木山の本陣渡部家、吉田屋、新発田屋、三条屋などの旅籠が残る。渡部家では大名行列の際の休憩場、宿として使われ、殿様が駕籠に入ったまま屋内に乗り込む「乗り込みの間」が残っている。江戸時代の会津街道は津川が会津藩の西の玄関口だったことから、越後と会津の主要道路として多くの旅人の往来で賑わった。この街道にはいくつもの峠があり、最大の難所といわれた諏訪峠を十返金一九が文化11(1814)年に越えている。その著書『方言修行 金草履』に「会津より越後新発田まで至る街道のうち、この峠ほど高く難儀なるはなし。暑い時分も峠は寒し」と記している。

また、吉田松陰は嘉永5(1852)年に越え、「諏訪嶺雪深く路険し歩行甚だ難、厳しい風は天を巻くようにして起り髪を染め顔を打ち冷たく肌をさす」と書いた。さらに近代日本を築いた人物のひとり山縣有朋も、慶応4年・明治元(1868)年の戊辰戦争では諏訪峠

を2回往復している。戊辰戦争で会津征討総督の参謀となり、長岡藩を攻略した後、諏訪峠を進軍、津川付近を攻め込む、とある。会津街道は、歴史上に登場する文人や志士がそれぞれの志を懐にして越えた、歴史の峠であり街道であった。

もうひとつ西洋人がいちはやく足を止めた地である。英国の女性旅行家イザベラ・バードが津川に立ち寄ったのは、維新後もない明治11(1878)年7月2日。一泊し、翌3日、津川河濱から新潟まで70kmの船旅を楽しんでいる。津川では混雑する宿屋、通りの雁木、道路は荷馬車で賑わっていたことなどを記している。阿賀野川の急流下りは、緑を足したスコットランド・スカイ島※の山と廃墟のないライン川であり、この2つを足したより美しいと評している。著書に『日本奥地紀行』がある。

こんな過去を思いながら阿賀町役場から県境まで走ってみた。昨年早春、多くの家族が逃れてきた道である。左右は新緑の山々に包まれた快適な道路が続く。行き交う車は精一杯の速度で走行だ。途中道路工事中で一時ストップする箇所もある。江戸時代から日本列島を横切る道の要所だった歴史は、今日も健在だ。磐越自動車道、JR磐越西線、国道49号、どれも津川を通る。津川の名勝は麒麟橋と麒麟山の景観。麒麟橋の下流にある左岸から山を望むと阿賀野の清流に麒麟橋が架かり、その上に麒麟山が入る。この風景は、絵葉書の写真のようになる。

※スカイ島……スコットランドでは2番目に大きな島であり、その壮大な景色が有名。

左: 旧会津街道 石畳の道
右: 会津のわらじ
下: 会津の街並み

編集後記

「母なる川」という耳慣れた言葉ではない、いまの信濃川を探そうと思った。大地の造型、水資源、食の供給源、景観、ひと昔まえなら舟運との恵みは数限りない。でも、やはり身近な萬代橋のある港と町の風景に惹かれた。季節を問わず、満々と水を湛え現代文明の真ん中を巣ぐる景観は、知るかぎりもっとも川に近く、ここにしかない価値である。ただ、この雄大な景観は、大河津分水や閑屋分水などの治水施設のネットワークに支えられていた。下流域のどこまでも広がる田んぼも、川が土台をつくり、そこに人智を加えた半自然だった。こんなあたりまえの現代によく気づく。1日にはぼ1回、信濃川が野性を見せつける瞬間がある。満潮時、膨れた海が越境し川を逆流する。ちゃっぶん! ちゃっぶん! 岸壁を打つ波の音に、いまが歴史の途上にすぎないことを思う。(渋川)

発行所

ふうど 編集室

まごころ印刷の
株式会社タカヨシ

■本社・工場 / 〒950-0141 新潟県新潟市江南区亀田工業団地1丁目3-21 TEL (025) 381-2000 FAX (025) 381-4800
■東京支社 / 〒110-0005 東京都台東区上野1丁目13-3 MYビル2F TEL (03) 3837-4488 FAX (03) 3837-4884
■仙台営業所 / 〒981-0952 宮城県仙台市青葉区中山5丁目7-32 TEL (022) 303-1225 FAX (022) 303-6830
■名古屋営業所 / 〒465-0093 愛知県名古屋市名東区一社4丁目33 ランドマーク一社501号 TEL (052) 753-8080 FAX (052) 753-8081
■オフィシャルサイト / <http://www.takayoshi.co.jp> ■商品サイト / <http://www.tk-print.jp>

「ふうど」はここに置いてあります

【新潟市】NPO法人 Made in 越後(中央区)、上古町商店街(中央区)、砂丘館(中央区)、佐渡汽船ターミナル(中央区)、朱鷺メッセ(中央区)、新潟NPO協会(中央区)、新潟絵屋(中央区)、新潟県政記念館(中央区)、新潟県庁広報展示室(中央区)、新潟県立図書館(中央区)、新潟市市民活動支援センター(中央区)、新潟市生涯学習センター図書館(中央区)、新潟市商工会議所(中央区)、新潟市中央公民館(中央区)、新潟大学図書館(西区)、新潟ふるさと村(西区)、新潟せんべい王国(北区)、ビーコ福島潟(北区)、亀田図書館(江南区)
【新潟市】新発田市立図書館、新発田市民文化会館、新発田市生涯学習センター【長岡市】長岡市立中央図書館【出雲崎町】越後出雲崎天領の里
【東京都】表参道・新潟館 ネスバス(渋谷区)、プリンスにいがた(中央区)

CO₂
Carbon Offset

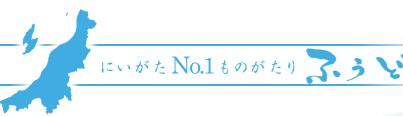
ふうどは、使用的な用紙重量に
相応する二酸化炭素(192kg)
をオフセットすることにより、温
室効果ガス削減に寄与しています。

エコプレス
バイナダー

針金・糊・加熱が不要な
製本方法を採用し、
リサイクルや怪我的危険へ
配慮しています。

RICE
INK

この印刷物は環境にやさしい
米ぬか油を使用したライスインキで
印刷しています。



僕たちの体は体重80g、身長約5cmの石ころ。
遠く故郷の山から川に運ばれ長岡の河原について長い時を過ごしていたよ。ちっちゃい体だけど母なる信濃川のチカラと大地のなりたちを憶えてるんだ。



わたしたちが休んでいた長岡の河原と風景がぜんぜん違うね。

風景を読む
新潟市で分流する関屋分水路より上流の信濃川は、日本最大の川にふさわしい風格と威厳を見せる。もし閑屋分水路がなかつたら、この水量のすべてが市街地を下る。洪水が来たら、ひとたまりもない。低い土地の多い市街地では浸水しやすく、水はけも悪い。昭和四十七年、閑屋分水路

賀野川が運んできた土砂が堆積してできている。この土砂の素は、遠くの高い山々の岩石なのである。

正しく畏れる

つくる

川を知る

信濃川の未来

昨年七月の新潟福島豪雨で、信濃川下流域が水害の常襲地であつたことを思い知られた。被害をだした平成十六年七・一三水害を大きく上回る降雨量にもかかわらず、建物・人的被害は少なかつた。どうしてだろう。北陸地方整備局河川部の河川調査官・中平善伸さんを訪ねる。



平成5~10年、大河津分水の洗堰の工事中に発掘されたトロッコ。(燕市 大河津資料館)



大地をつなぐ川

都市の懷に、大河を抱く新潟市。どんなに忙しくても、この勇姿に会うと、たちまち悠久の時の旅人になる。

五月下旬、信濃川の中間地点・飯山市に行つてみた。千曲川は四方を信州の山々に囲まれ、標高三百メートルほどの高地を優雅に流れていた。水の色は緑っぽい。見慣れた川より他人行儀。でも、この川の一滴一滴がいすれ新潟に行くのだと思うと、懐かしい気分になつた。川は人の気持ちも、つなぐのだろうか。

信濃川は、長野県甲武信ヶ岳の標高二二五〇メートルの森林を発し、フォッサマグナ糸魚川静岡構造線に屹立する山塊の間を蛇行する。千曲市で向きを北に変え、長旅のあと新潟県津南町に入る。魚沼丘陵と並走するよう北上し、新潟市で日本海に出る。その長さ三六七キロ。

この川の一滴一滴がいすれ新潟に行くのだと思うと、懐かしい気分になつた。川は人の気持ちも、つなぐのだろうか。

九十年まえの大正十一年、大河津分水路ができる前は、川幅は現在の二倍以上だった。初代萬代橋の長さが、それを証明する。大河津分水路ができる前は、川幅は現

ができるまで川に近い町は、大雨が降るたびに排水溝があふれ、浸水することが多かつた。

がり、郊外の湖沼や低湿地帯の水位が下がり、干拓され農地になつていった。町の中にいると気づかないが、新潟の大地に人智が加わらなければ、川の自然堤防や砂丘に添う小村だつただろう。でも幸運だった。信濃川の河口という地位の利は、湊として栄える道を与えた。大河津分水路の事業も、港のための信濃川下流改修がきつかけだった。

日本最長の信濃川。年間の流下量も日本最大である。新潟市では橋を渡れば、いつもそこに大河が流れている。このあたりまえに思える風景は、流域の中小河川とも繋がるダイナミックな治水システムに支えられていた。もつと目をこらすと川と大地の記憶も見えてくる。

大河のほどりで

想い 川を見つめる

信濃川は、長野県甲武信ヶ岳の標高二二五〇メートルの森林を発し、フォッサマグナ糸魚川

静岡構造線に屹立する山塊の間

を蛇行する。千曲市で向きを北

に変え、長旅のあと新潟県津南

町に入る。魚沼丘陵と並走する

よう北上し、新潟市で日本海

に出る。その長さ三六七キロ。

新潟東京間にほぼ匹敵する。途

中、流域の山々から下る水を集

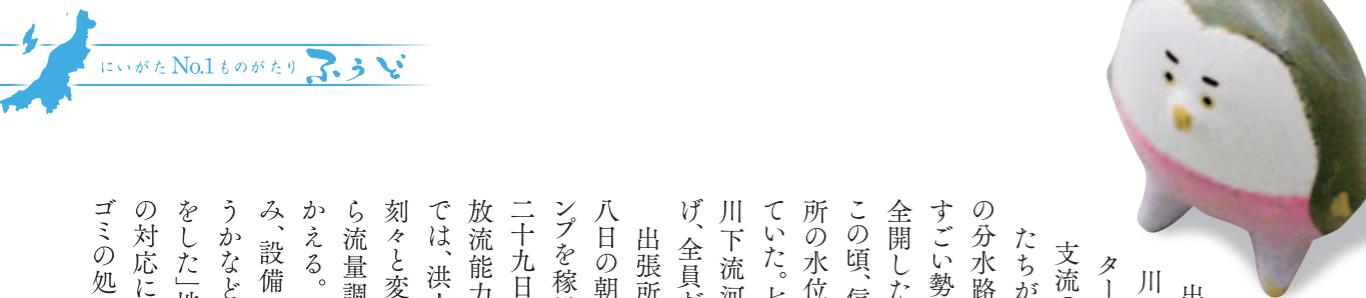
めた犀川や魚野川など大小の河

川と合流し、日本一の水量をほ

こる大河になる。上流の長野県

では千曲川、新潟県に入ると信

濃川と呼ばれる。川は長野の山々と新潟の大地をつないでいる。日本海側最大の越後平野は、長い歳月をかけ信濃川と阿



にいがたNo.1ものがたり ふうじ

洪水対応

出張所長の矢澤克敏さんは三十二日、朝から鳥屋野潟排水機場のポンプを稼働し、鳥屋野潟の水を排水。二十九日、新潟大堰のゲートを全開し放流能力を最大にした。信濃川水門では、洪水が市街地に流れないよう、刻々と変化する流下量を監視しながら流量調整に努めた」と当時をふりかえる。「出張所に四日間泊まり込み、設備が壊れていないか、堤防はどうかななど、いつも以上に厳重なチェックをした」地域住民からの問い合わせ等の対応にも追われた。水門に溜まったゴミの処理も大変だった。ドラム缶な

設の維持管理とケート操作を行うほか、河川パトロール、堤防の除草、河道内の樹木の伐採、堤防・護岸工事の監督をしている。

信濃川本流の流量は、いつも制御されている。矢澤さんたち十人ほどの員が、三百六十五日、二十四時間交代制で流量を監視しているのである。

した百人の人たちに心を寄せていたようには思ふ。

堰の操作室に入れてもらう。大きなガラス越しに、小高い緑の山々を背負う分水路が見え、左手の上流側は分岐前の大河が満々と水を湛え、室内の空気はピンと張っていた。水流に流す水量を調節する洗堰と、残りの水を分水路に流す新可動堰のゲートが、ここで遠隔操作されている。二十四時間、三百六十五日、常時二人の操作員が片時も気の抜けない時間を過ごしている。大型モニターには信濃川や支流の各地点に

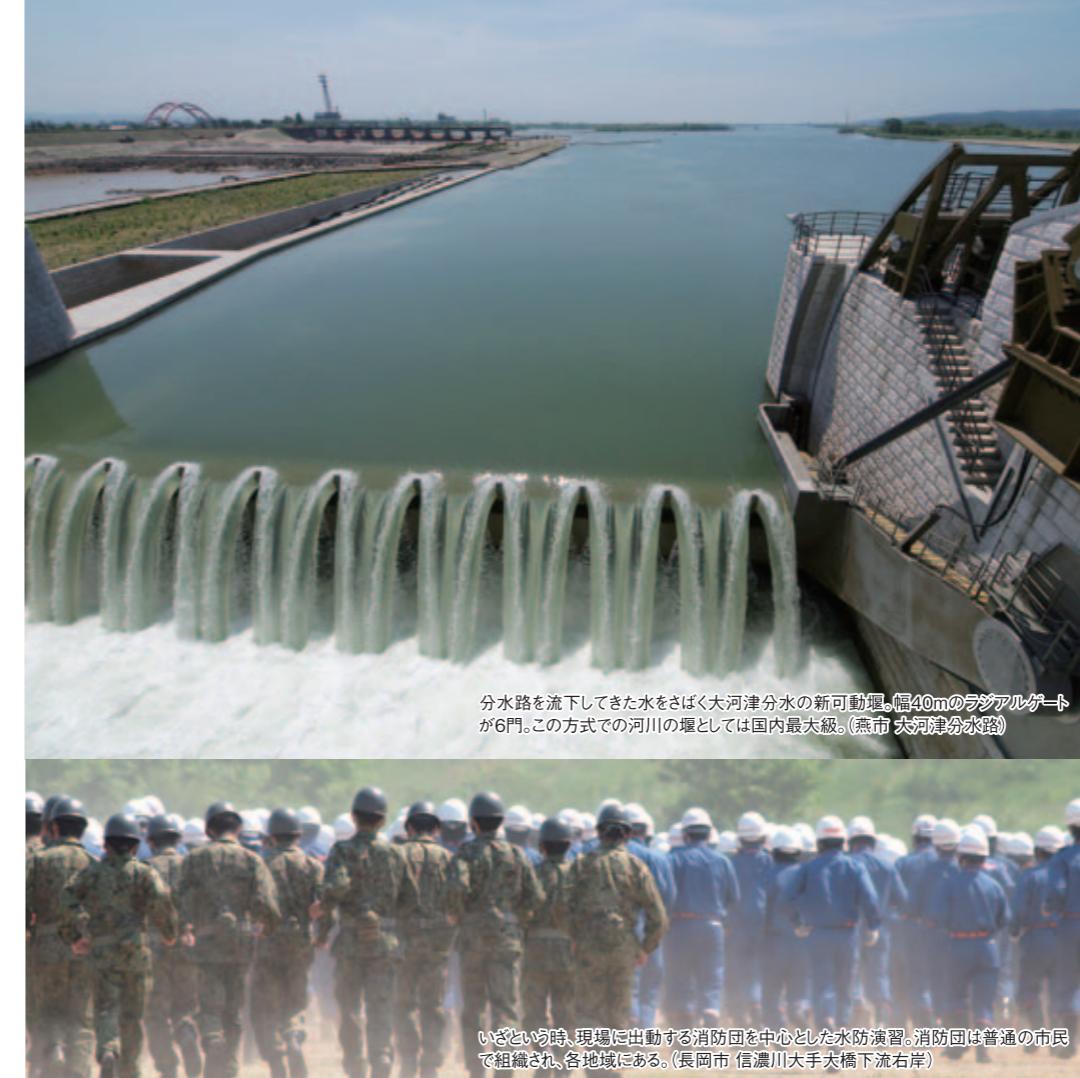
クプロジェクトはたまたま幸運だと思う。反面プレーヤーもある。梅雨時や台風の時は作の如何で下流住民の暮らしに影響すると思うと、つねに危機感がある。が、使命感で「緊張感がある」と表情を引き締めた小幡さんに、大河津分水の基盤を固めた青山士(あらひこ)が石碑に残した「人類のため」の言葉が重なる。

大河の歴史の途上で

した百人の人たちに心を寄せていたようには思ふ。

堰の操作室に入れてもらう。大きなガラス越しに、小高い緑の山々を背負う分水路が見え、左手の上流側は分岐前の大河が満々と水を湛え、室内の空気はピンと張っていた。水流に流す水量を調節する洗堰と、残りの水を分水路に流す新可動堰のゲートが、ここで遠隔操作されている。二十四時間、三百六十五日、常時二人の操作員が片時も気の抜けない時間を過ごしている。大型モニターには信濃川や支流の各地点に

クプロジェクトはたまたま幸運だと思う。反面プレーヤーもある。梅雨時や台風の時は作の如何で下流住民の暮らしに影響すると思うと、つねに危機感がある。が、使命感で緊張感がある」と表情を引き締めた小幡さんに、大河津分の言葉が重なる。



分水路を流下してきた水をさばく大河津分水の新可動堰。幅40mのラジアルゲートが6門。この方式での河川の堰としては国内最大級。(糸魚川市 大河津分水路)

いざという時、現場に出動する消防団を中心とした水防演習。消防団は普通の市民で組織され、各地域にある。（長岡市 信濃川大手木橋下流右岸）



新潟市は浸水被害から守っている新潟大堰。日本海と関屋分水路を仕切り、洪水時にゲートを全閉し放流量をあげる。(新潟市西区)



越水した堤防の応急処置工法の手順を訓練する消防団。「危険な水防現場では経験したことしかできない」と北陸地方整備局の中平さん。(信濃川・魚野川水防演習)

「平成十六年水害後 被害を最小限にするにはどうするか国交省・新潟県・流域市町村が連携し、ハード面とソフト面で、やれることをやつた結果です。とくに町中の海拔表示や避難方法などを知る広報活動が充実し、住民の水防意識が高くなつていました。ただ、ここまでくるのに六年かかりました」ハード面では、「堤防の嵩あげ、大河津分水路の新

可動堰メ各田川上流の遊水地整備
結果的に、ぎりぎり間に合いました。
これは奇跡と言つていい大幸運でした
た「新可動堰も遊水地も、正式な完成
式典をする前のフル稼働だったそう
だ。そして、この豪雨で住民の水防意
識の変化を強調する。「遊水地事業に
着手する時、住民のご理解を頂くの
に時間を要したと聞いています。た
しかに育てた農作物を、下流の人た

ちのためには犠牲にする訳ですから
ですが結果的に遊水地が機能し下流
域の氾濫は避けられ、下流の人たち
から、「よくぞ、あなたたちは決断し
てくれた」と感謝され、上流の人たち
は「下流の人たちばかりに負担をか
けてはいけない」という気持ちにな
なつてくれました」昔から川の上流
と下流は、水をめぐり対立する関係
だけに、心温まる話である。

信濃川の堤防整備を経た今、
これから新しい治水の歴史が始まる
うだ。治水の基本は、川の水位を下
ることで、今年度から河床の掘削
始めるという。生き物が憩える河
も再生するという。ここでは、もう
の未来が始まっている。それでも「
然にはかなわない。謙虚に教訓か
学び続けるだけ」と人智の限界を
てきた中平さんの言葉は、重い。

卷之三

